

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成28年10月26日 開会 9時59分 閉会 11時48分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

三宅文雄 西村慎次郎 上野安是 簗戸利昭
藤原清和 森本典夫

4. 欠席委員名

藤原浩司

5. その他の会議出席者

(1) 副議長 西田久志

(2) 事務局職員

事務局長 川田純士 事務局次長 岡田光雄
主査 柳本兼志

6. 傍聴者

(1) 議員 0名

(2) 一般 0名

(3) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（三宅文雄君） 皆さんおはようございます。

ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

〈所管事務調査事項について〉

委員長（三宅文雄君） 先般の委員会におきまして、8月に開催いたしました市民の声を聴く会での課題について書かれた解決策の処理方法について協議し、項目ごとにA、B、Cに分類していただきました。本日は、そのうちBの委員会として協議していくものに分類された項目の中で、今後所管事務調査として取り上げていくものの決定に向けて協議をしていきたいと考えております。

それでは、西村副委員長から提案書が提出されておりますので、説明をお願いいたします。

委員（西村慎次郎君） 資料のほうは既に配付されてると思うんですが、総務文教委員会所管事務調査事項提案書というのと、もう一つ別紙、市民の声を聴く会での参加者の声というこの2枚をまず説明させていただきたいと思います。

調査事項としては、公共交通の充実についてということとさせていただいております。先ほど委員長からありましたけど、8月の市民の声を聴く会において、人口減少問題についてみんなで考えようというテーマでワークショップを行いました。その結果、市民の方からたくさん声をいただきました。その中で、公共交通に関して多くのご意見をいただきましたので、以下の目的で公共交通の充実について調査を行いますということで、目的を上げてます。1点目は、市民の利便性及び市民サービスのさらなる向上、2点目は公共交通に対する井原市の財政負担の縮減ということで、目的を2つ上げさせていただいております。

調査の方法としては、本委員会の開催及び執行部からの資料の収集ですとかヒアリング、また先日先進地を視察、高山市を視察しました、先進地の視察といった方法によっていろんな情報収集し、改善に向けた何か取りまとめができたかなというふうに思っております。

調査の期間は、28年10月から来年2月までということで、一応最大の期間を書いているつもりです。

執行部への質疑事項として、要求してる資料をもとに公共交通に関する現状についてということで、資料要求として（1）から（9）まで上げております。

まずは、今の井原市の公共交通網の現状がどうなっているかということ把握する必要があるということで、まずは市内の路線図、対象をどこまで範囲を広げるのかとなりますけども、路線バス、あいあいバス、乗り合いタクシーという。済いません、別紙続いたところに井原鉄道までちょっと範囲を広げてます。

（2）路線ごとの時刻表、運賃表、運行業者、1、2についてはパンフレットが多分あると思うんで、そのあたりの入手ということです。

(3) 過去3年間路線ごとの運行収入、運行費用ということで、先日高山市さんを訪問した際にはそのあたりまで計算をされて運行の、地域バスとか路線バスの見直しということをしてたんで、このあたりも井原市としての現状を把握しておく必要があるかなということでもあります。

それから4つ目は、車両の一覧ということで、これがどうつながっていくかということはあるんですが、今の井原市があいあいバスとか所有されてる部分もあると思いますんで、井原市所有の車両の一覧ということで、購入年ですとか乗車定員人数、車両別の路線運行状況、走行距離といったところを把握したいということで4つ目上げてます。

5つ目として、路線、曜日、時刻ごとの乗車人数利用状況、できるだけ細かくということで、どこまで情報いただけるかわからないんですが、今後の改善というか、改善ということをご提案していこうとすると、具体的にどういう利用状況があるのかというのを細かく、増便にしても減便にしてもこういった曜日、時刻ごとの乗車人数の把握が必要なのかなというふうに思っております。

それから6つ目、交通弱者分布図ということで、乗り合いタクシーとかあいあいバスっていうのは、実際には65歳以上の方とか自分で交通手段を持たれてない方が乗られてるということで、こういったあたりにどれぐらいの人数の方がいらっしゃるかということが把握できたらなというふうに思って。地区単位よりももう少し字単位レベルで把握できたらというところで、思っております。

7つ目、路線ごとの井原市の補助額ということで、どれぐらいな財政負担が井原市にあるのかということと路線ごとに把握と。高山市さんとか路線ごとの収支っていう、市の路線ごとの市の負担額っていうのも出されてたんで、こういったところを井原市としても現状を把握してはどうかということで書いております。

それから8つ目が、増便、減便検討基準、これが公共交通会議のほうで定められてるものです。これは資料があると思いますけども、それをいただくというところなんです。

9番目が、スクールバス、タクシーの運行基準とか、スクールバス、タクシーの運行の実情ということで、市民の声を聴く会でもスクールバスに関するご意見をいただいておりますんで、現状を把握しているというところなんです。

別紙、2枚目のほうを見ていただくと、市民の声を聴く会での参加者の声ということで、今回この委員会でBというふうに位置づけた内容を右側には書いています。その改善案が出た内容のもととなった最初の作業、ワークショップでいう作業1をしたときに、困っていること、気になっていることということで書いてあるものも今回見ておく必要があるかなということで取り上げています。

困っていることを聞く大分類として、これは私が勝手にというか、ワークショップの中でやってる分類も考慮しながらですけども、公共交通の中で通学に関することが書かれてあったり、通学路であったり通勤だったり通院だったり買い物であったりという、大きく分類分けをさせていただいて、それに対して改善案がこういうことができるということでまとめてみております。

この中で4つ目の改善案に書いてある子供の通学路の安全の確保というところについては、ちょっと公共交通の充実というテーマで所管事務調査を行うには、色合いが違うとか内容が違うかなというところで、これに関しては今回の所管事務調査の提案書の中には含めていません。ただ、これをBとして上げてますんで、できれば12月の定例のときの所管事務調査へこの現状の子供通学路の安全の確保ということで、テーマに所管事務調査として上げて、現状毎年7月ぐらいだと思うんですけども、各学校から通学路に対する改善要望っていうのが教育委員会には出されてると思うんで、そのあたりを把握して、問題箇所がどれぐらいあるのかとかというところは把握できたらなというところで、ちょっと今回はこの公共交通の充実というところのテーマとしては外してるところではあります。

それ以外に対して、こういった改善案とかこういう困っていることっていうのを受けて、井原市の公共交通に関する現状がどうなっているかというところを把握するために、執行部への資料要求というところでひもづけながらまとめております。

委員（森本典夫君） 執行部への資料要求の中の7の路線ごというのはどの、資料の路線図の（1）があるけども、そのことを言ってるんですか、路線バスとあいあいバスと乗り合いタクシーということの路線ごとのということでしょうか。

委員（西村慎次郎君） そのとおりです。後ろのほうに資料はつけてるんですが、あいあいバスといっても、あいあいバスでも路線が何種類かありますんで、例えば嫁いらず観音線とか馬越恭平線とかといって、あいあいバスも複数の路線を持っています。その細かい路線の単位に把握できたらなというふうに思っています。

委員（森本典夫君） 細かい路線の……。わかりました。

委員（上野安是君） 当然のことながら、きょう持ってきたんですけど、28年3月に地域の公共交通網の形成計画ってのも当然市がつくってますので、あくまでも市のやり方とすれば、これに乗っかって今後これは5年か10年間だったか、やっていこうということなので、そこにどこまでこちらが沿っていけるかというのと、この計画にないのをどういうふうにものが、今実際に本当に困ってるところをどうしていくんだみたいな話も、この計画にあくまでも沿おうとしたときにはちょっと難しいところがあるかもしれませんが、もう基本は執行部もこれ以上のことは多分答えられんというか、今の現状ではそうなんですけど、その

辺を委員会としてどういうふうに持っていこうかなということも含めて、もう少しそれぞれの委員がここもしっかり読んでおいて、こういう計画でやっていくんだというのはやっぱり持っとかにゃいけんというふうに思いますけど、それもよろしくお願いします。

委員（簀戸利昭君） 西村副委員長がええ提案をしてくださっとるんですが、ちょっとボリューム的に多いのかなという気もするし、幾らか確かに公共交通ですから、必要なことだとは思いますが、路線ごとの井原市の補助金額なんかを中心にやってもいいんか。高山市でも報告がありましたように、各路線で利用人数であるとかというのを把握して、どれぐらいな補助額でどうなっているというようなことがわかればいいのかなという、提案ができればそれは最高なんですけど、なかなかそこまでいけるのか、所管事務ですから、井原市の行っている公共交通の所管に関して幾らか意見が言えればそれは最高でしょうけども、その現状を把握するという意味の所管事務でもええんかなという気はするんですが、ちょっとボリュームがあり過ぎて、2月までにできるのか、これだったら1週間に一遍じゃとてもじゃねえけどできんのかなという気はするんですが、幾らかでも整理してどの項目を重点的にやるかというような話でもいいんかなと私は感じました。

委員（上野安是君） 今簀戸委員が言われましたけど、結局1から9までの資料要求を見てもらえばわかるように、リンクしとるというか、全くそのところがポイントで、そのための資料要求ということなので、そんなに、確かにスケジュール的にはもう4カ月というか、5カ月ほどしかないんで、すごいハードですけど、何とかこれをこなしていかにゃいけんというか、その今のそれだけということにならんと思うんで、それだけやろう思うても、結局1番とか9番まで全部必要なわけじゃけえ、執行部にはどこまで出してもらえかわからんけど、資料要求はしといて、あとそこ足らずの部分は自分らで、そりゃあ個々で調べていって集約していくか、その辺も含めて形というか、実際にこれから先も困られるのは間違いないので、そこを議会としてどうやっていくか委員会としてどうやっていくかというのはやっぱり必要なことなんかなと思うので、ちょっと無理してでもやっていく必要があるんかなと、そういうふうには私は考えます。

委員（森本典夫君） 今簀戸委員が言われたように、もう執行部への資料要求というのはかなりあって、それを出していただくのは、出せれる範囲で出していただくというのは結構なことだろうというふうに思います。

それで、今議長が言われましたように、その出た資料に基づいて、僕が思うのは、調査の目的の1にあるように、そこで委員会としてこの資料に基づいていろいろ協議して、1、2にあるような形で提案できればというふうな形に持っていくのがいいんじゃないかなと。それで、議長が示されたように、資料があります、今まで公共交通のほうから出されとるのも

しっかり読んで、それでそれに載ってない部分で委員会としてはこういうふうにしたらどうかという提案ができれば最高だなというふうに思ってますんで、1から9については出せれる範囲でしっかり出していただいて、それに基づいて調査の目的の1に沿って何か委員会として提案できないかなというふうな持っていく方をすればどうにかいくんではないかなというふうには思います。

委員（藤原清和君） 今、森本委員がおっしゃったとおりで、それでいいと思います。

委員長（三宅文雄君） それでは、箕戸委員。

委員（箕戸利昭君） はい、いいです。

委員長（三宅文雄君） それでは、今副委員長のほうから提案がありましたように、1から9について進めていくということでまとめたいというふうに思います。

それでは、ただいま西村副委員長から…。

議会事務局長（川田純士君） 先ほど西村委員さんが説明のところで執行部への資料要求の（1）で井原鉄道を漏らしとるとか言われたように思うんですが、それを追加ということでもよろしいんですかね。

委員（西村慎次郎君） 市民の声を聴く会で井原鉄道に関する声もありますので、今回の（1）に限らずですけども、路線ごとの時刻表ですとか利用人数とか利用状況、運行、収支、どこまで把握できるのかわからないですけど、井原鉄道も対象にしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

委員（藤原清和君） 井原鉄道は入れるべきだと思います。

委員（森本典夫君） 市内の路線図じゃから、もう時刻表しか出てこんわな。じゃから、そういう意味では、路線図の中に、路線バスやあいあいバスや乗り合いタクシーはそれぞれいろいろ該当地域があつて、そこを運行しようるんじゃけど、井原鉄道は、ここで言えば井原駅を中心に上下をしようるだけで、あとは時刻表ということになるんで、ここで何を求めるのかという、路線図、言われても井原鉄道は困るんじゃないかなというふうに思うんですけど。

委員（藤原清和君） この路線図というのは、これ外す、このバス路線で、これでええとは思うんです。鉄道についても公共交通の充実じゃから、井原鉄道もそれ入れてから、どのような状況かというのを全部把握した上でいろいろ連携していくべきじゃなと思いますから、井原鉄道、この路線図ということになると、ほな確かにおかしなことになるけども、井原鉄道を入れるべきじゃろうというに私は思うんですけどね。

委員（上野安是君） 逆に、そこまでいったら今度は、さっき箕戸委員が言われたように、ちいと広がり過ぎて、結局市内で、例えば山間部におられる方とか実際に交通手段がな

い方が病院までどう行く、買い物までどう行くみたいなその部分もやっぱり掘り下げていきょうらんといかん。こっから福山に出る、倉敷に出る、岡山に出るような、その井原鉄道とのリンクとかというふうな話でいきょうったら、ちょっと広がり過ぎて、逆に言やあ、要望するほうとすりゃあこの時間帯にこういうふうには井原鉄道走らせてくれえみたいなの、結局結論的にはそういうにしかならんわけで、今そこまで今回の、例えば4年間かけていきましようということになれば、もうぎちぎちでいって、井原鉄道のほうにも話をして、こうこうじゃけえ、これだけ要望があるんじゃけえ、必ず利用して、じゃからこの便をふやしてくれえみたいな話もいけるんでしょうけど、結果的に今井原鉄道のことをここで話しても、先ほど森本委員も言われましたけど、なかなか我々のほうもそこまで手が回らんと。言い方は悪いですけども、難しいんじゃないかなというそういう気がせんでもない。それやりたい気持ちはやまやまですが、難しいのかなというふうには思っています。

委員（藤原清和君） 以前請願じゃったか、一遍出てきて、いろいろ障害持った子供たちが、例えば福山に勤めに行くと、全然このバスの便も電車の便もどうにもならんと、変更してほしいということがありましたけども、いまだにそういったところがあるような感じじゃから、そこら辺も含めてやるべきかなというふうには思いますけど、関連性持たせて、一部ね、全部いかんでも。そこまで目をつけてくれとんかというのはええ思うけどな、そりゃあ。

委員（森本典夫君） 8、9で井原鉄道のことが出てくるんですが、議長も言われましたように、一般的に言う公共交通は、1の括弧の中にあるあたりのことがいろいろ論議されているというのを、公共交通会議で議論されているという問題なので、ですから8、9にこういう声があるということについては、1の一番下の通学路のときと同じように12月議会で所管事務調査で取り上げて、そのときにいろいろ情報もいただいて、こういう声があるんだということでやったらどうかなというふうには思いますので、1の中の3つの路線図以外に井原鉄道は入れなくて、そういう形の扱いにしたらどうかなというふうには思います。

委員長（三宅文雄君） 1の市内路線図の中で、副委員長から井原鉄道を含むという意見と、それから含まなくてもいいんじゃないかなという意見が出ておりますけれども。

委員（簀戸利昭君） そこへ、（1）に井原鉄道入れてしまうと、結局路線ごとの（5）の乗車人数であるとか利用状況をできるだけ細かく把握したいということでもあります、そこまで広げていくと非常に難しいんか、あいあいバスであるとか路線バス、また、乗り合いタクシーだけでもかなりの資料になるので、今回は後回しでもええんかなという気はするんですが、井原鉄道については。

委員（西村慎次郎君） 当初は、私、とにかく公共交通に関すること、とりあえず全部を

現状把握して、最終的に深掘りしていくところ、簀戸委員とか言われたように、ターゲットはだんだん絞っていかないと到底期間内におさまらないと思ったんで、まずは現状把握は広く、全てを把握して、どこにターゲットを絞って深掘りしていくかという、進め方かなというふうに思って、広く上げたんですけども。先ほど森本委員言われたように、井原鉄道のあたりまでいくと、議長も言われてましたけど。ちょっと範囲広がるんで、先ほど森本委員言われた12月議会での所管事務調査で一応現状は把握するというくらいでおさめておくっていうところで、今回の対象から外してもいいかなというふうに思います。

委員（藤原清和君）　　この市内の路線図というてあるけども、せっかく9があるんじゃないけえ、もう一つ10してから、井原鉄道の現状についてということで資料提供してもらやあええが、資料だけ出してもらやあ。そうせんと、12月議会でやろう思うときも、資料出してもろうときゃあいろんなことが言えるけども、突然ここで資料出しなさい言うたんじゃいけんから。資料ぐらい出してもらやあ、井原鉄道というて、それぐらい出してもろうたらええと思うんですけど。それ、井原鉄道の現状がどなんんかということの資料ぐらい出してもらやあええ、運行状況も含めて、乗車人数とかそんなもも含めて、あそこに大きな金額いきょうじゃもん、ちゃんとしてもらあたほうがよろしいが、井原市議会としては。それ、（10）のところで井原鉄道の現状についてで、資料だけ提供してもらやあよろしいが、そうすればあといろんなことを、12月議会でも質問したりできるんじゃないから。そのほうがええと思います。10月になってから言うたんじゃ、またそっから延びるということじゃから、今出してもろうとくと。せっかくこういうことをお願い、資料要求するんじゃないたら、やるだけやってというに思いますから。（10）をこしらえて、そこへ井原鉄道の状況についてもやってもらうというにしたほうがいいと思います。

委員長（三宅文雄君）　　それでは、とりあえず意見をまとめたいと思います。

1番の市内路線図については、路線バス、あいあいバス、乗り合いタクシーということで、井原鉄道は含まないということで、この1番については井原鉄道は外すということでよろしいですか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君）　　次に、10番の井原鉄道の現状についてということで、藤原清和委員のほうから提案がございましたけれども、他の委員の方。

委員（森本典夫君）　　僕は、12月の所管事務調査をやるということになれば、そのときに出してもらって、その資料に基づいていろいろ関係者に話を聞くというので、そのように

して、この10を改めて、井原鉄道の充実についていうふうにしなくてもいいんじゃないかなというふうに僕は思います。

委員長（三宅文雄君） 箕戸委員、何かお考えありますか。

委員（箕戸利昭君） 難しいですね。

委員（藤原清和君） 今この一番上に、調査事項として載っとる公共交通の充実についてということですから、これが一番大きなあれなんですから、ぜひそういったの、資料は出していただいといて、事前に知っておくということが一番いいんじゃないか。それでいろいろ説明を、質問もできましようし、当日出してもらって説明だけ受けて、ああそうですかじゃいけんから、というふうにしたほうがええんじゃないかなと思うから、資料の提供は先に欲しいなということですから。せっかくこれだけ、お願いするんじやったら、井原鉄道も一緒に出していただくということがええと思います。

今、決とりょうてんじゃけ、どうしようかじゃけ、決どちらかじゃ。

委員（上野安是君） 事務局長、どういうにその公共交通というか、確かにそれ今の話になれば、その公共交通というてもバスとか乗り合いとかということを中心に行こうやあという話の中で、ここで藤原委員が言われるのもわからんでもないんです、わからんでもねえんだけど、実際には何か今回のこの提案に関して言えば、井原鉄道はちょっと外しとったほうが、逆に言やあ深めれるんじやねえんかなと思ひようるんです。

藤原委員が今言うたら、例えばその障害がある方のこうこうこうでいうことで、提案も出ていたり、向こうへ出ていたりする便で、井原鉄道を利用する際になかなかその時間帯がねえとかというのは、確かにそりゃそうなんですけど、その情報が欲しいいやあ、やっばり先ほど森本委員言われたような、もう12月にぼんと所管事務で出して、その資料で12月の議会のときに執行部とこうこうこうでという話で情報もろうたりとかすりゃそれでええのかなと思うし、当然のことながら前振りでこうこうこうで、12月には出そう思うんじやみたいなの一発振るときゃあ、そんなにばたばたすることもないとも思うたりもするんですけど、ここに入れてしもうたら、今度はそれも一緒にまとめて所管事務せにゃいけんようになるんか、これやり方の話ですけど、どがななんでしょうか。

だけん、藤原委員が言われるのはようわかるんですけど、森本委員が言われたほうが私はええのかなという、そういうふうにやったほうがええのかなと、すっきりする。

委員（森本典夫君） 藤原委員が言われるようなことを考えると、一つの方法としてどういうふうなやり方が一番ええんかわかりませんが、議長にこういう資料をここに頼んでくださいということでシステムとしてはやるわけじゃから、井原鉄道についての資料については委員会が議長にお願いして、議長がやるんか、個人がお願いして、議長にお願いして、こう

いう資料を要求してくれえと、出してもらうてくれえというふうな形にするんか、そこらどっち、どういうふうにするのが適当なのかわかりませんが。前もってそれを言うて資料をいただいとけば、12月議会のときに所管事務調査の資料として、大体こうなれば同じもんが出てくるんじゃないかと思えますけど、それは藤原委員が言われるようなことには対応できるんじゃないかなというふうに思うんで、この中へ入れずに、別に議長名で資料をまず要求しとくと、要望しとくというふうな方法で前もって全議員に配られるんかこの委員会に配られるんか、そのあたりはどういうふうにしたらどうなるというのが僕ようわかりませんが、それは事務局がいろいろ考えてもらって、議長名で井原鉄道については資料として前もって出してもらうということはできるんじゃないかなと。ですから、この中へ入れることになれば、簗戸委員が言われるように、膨大じゃねえんかというので、また一つプラスになるということは、余計膨大になってくるんじゃないかなというふうに思うんで、そういう方法をちょっと検討をして、藤原委員の要望に応えるというふうなことにはならんじやろうかと思えますが。

委員（藤原清和君） ほな、もうこれに入れずにほんなら、別に資料提供してもらおうと、出してもらうようお願いしますということで、それは皆さん方のまた参考になるし。

委員（森本典夫君） そのあたりが、うまいぐあいにすうっといくんかどうかというのはちょっとよう研究せんといけんけど。

個人でやるとなれば今まで、今先ほど言うたように、議長にこういうのを、資料要望してくれえということで出して、執行部へ議長名でやってもらって、それで返事が来て、その要望した人に伝わるという形なんじゃけど、それが委員会としてそういう要望を議長にして、同じ扱いになるのかどうかというのが問題になるんじゃないかなというところあたりで、事務局はそこらあたりどうですかね。

議会事務局局長（川田純士君） 資料要求の取り決めとしては、議案の審議について求める場合と委員会の所管事務調査に必要な資料として求める場合、それと議員個人、会派で資料要求する場合というこの……。

委員（森本典夫君） 3つあるんかな。

議会事務局局長（川田純士） 3つ。

委員（森本典夫君） ほな、2番目でいきやあええが。

議会事務局局長（川田純士） やっぱり委員会の所管事務調査に必要な資料ということの要求ですんで、これですか、また別枠で資料要求するか。いずれにしても、委員会での要求ということになります。

委員（上野安是君） 委員会での要求ということになれば、それはもうこれに盛り込んで

一緒にやったほうが受けるほうも、今私は12月の所管事務でぼんっと出て、ほなそれで資料がこうこうこうでいう話で、その今の通学路とあれが別として出るんじゃないたら、それはそういう資料要求が当然できるからそれでええと思いますけど、前もってその情報が欲しいっていうことになりゃあ、これの10番目でぼんっと入れといたほうが、それは何か委員会としてもまとまっとなかなというたような、ちょっと今揺れ動きようじゃしますけど、どうなんかな。

委員（簀戸利昭君） （10）に井原鉄道の現状ということで、どこまで聞くんらという話で、へえじゃけえ（5）の乗車人数とか時刻とかの利用状況を全部出してくれえ言うんか、どこまで求めていくんねえという話じゃな。

委員（藤原清和君） これ実際読んどったら、Bのところへね、井原鉄道が高過ぎるとか運行が少な過ぎるとかというにいろいろ載っかりますが、そうすると井原鉄道がどんな状況かというふうなやっぱり把握するってのがええんか。もうちょっと安くせえというんがあるんじゃないらけど、その補助しなさいというのこっちに載せたりしとるけども、そういうんじゃのうて、現状どんなかというのを先知るということが必要かな。今Bのとこだけ見ましたら、そういうの載っかりますから、ぜひそういうにやるべきかなというに思う。10番載せるかどうかというのは判断してもらやあええけども、もう一旦言うたんじゃけど、どうせ一緒にしたほうがええんだったら、資料出してもらいよったらということであええんじゃねえかな思うけどな。

委員（森本典夫君） その井原鉄道については、12月の所管事務調査でやるということが最終的に決まるんじゃないたら、決まった時点でというより、こん中へ入れるんじゃないらなくて、その現在の提案書については公共交通の充実についてということになっとるけれども、この井原鉄道の資料として10番入れて出していただくとなれば、そのことについても執行部が来て、それをやるときにそら一切議論ならなんだじゃねえかというような話になってもちよっこここはまずいというふうに思うんで、そういう意味では、改めて所管事務調査として12月にやるんじゃないたら、12月の所管事務調査の前もっての資料として今言いました、局長が読まれました2番目の委員会として議長を経由して、資料として要求すると。この時期は、ちょっとそりゃあその出す時期よりはずらしてもええと思う、例えば11月の中ごろに出すとかというな形で、それを出してあとまたすぐ井原鉄道のことになれば、向こうは何で一緒に出さなんだんあということにはならんとは思けど、先ほどの2番の所管事務調査に必要な資料として請求できるということになっとるわけじゃから。例えば、それを出してからあとまた12月の所管事務調査でこれをやろうと思うから、資料を出してもらおうというな形でやったらどうかなというふうに改めて思います。

もう一回、ちょっと言うと。ここへ10番へ入れてやったら、今度は執行部が来て、いろいろ所管事務調査をするときに、10番だけは資料としてだけもらって、何も質問もせなんだら何のために資料を出したのかなということにもなりかねんというふうなこともちょっと懸念します。12月でやるんならよ。

委員（簀戸利昭君） いろいろご意見が出ようりますが、とりあえずというか、今回は1番から9番までで閉めて、また改めてやられてもええんかなという気がするんですが。委員会としてやるべきでしょうから、やはり。

委員（上野安是君） もう今簀戸委員が1番、9番で、藤原委員の意見もちょっと尊重せんようになっておりますけれど。

委員（森本典夫君） だけん、尊重するが、どうにか資料要求するが。

委員（上野安是君） 要求するのは多分いいかなって、多分っていうよりも、委員会でやればいいとは思いますが、やるべきだろうとは思いますが、やって12月の所管事務ということで、延期してということでも間に合うというか、できるのかなというような気がします。だから、ちょっとこれとは井原鉄道は分けたほうがいいという、その考えを進めようと思います。

委員（簀戸利昭君） やはり調査の目的に市民サービスのさらなる向上と、2番目に財政負担の縮減と書いてありますんで、そういう方向に持っていくのであれば、次回でもいいんかなと。それ12月定例会に、いきなりになるんでしょうけど、出して行って、要望があれば出して、委員会として出してやって、とりあえずはやはり路線バス、あいあいバス、乗り合いタクシーについての調査を行うというんでもええんじゃねえんかなとは思いますが。

委員（西村慎次郎君） 公共交通っていうと、鉄道も入りますよねっていうところがあって、この所管事務調査を進めて行って、最終的にどこまでやるのっていうところがまだグレーな状況で話をして、私なりに最後のまとめまで考えていくと、公共交通の充実に対してこんな現状把握して、こんな課題があるんじゃないかと、これでこういう提案をしてっていうストーリーを考えたときに、井原鉄道抜きでまとめるのは何かいけんというのがあったりして、最終的に井原鉄道に対してこんな改善をしたらどうかという提案が出てくるかどうかはわからないんだけど、範囲に入れとくほうがすっきりするとか、説明がつかないというのがあって入れてはどうかというふうには当初思ったんです。

路線を考えると、鉄道っていう、バスと鉄道っていう大きく分かれちゃうんだけど、人を見ていくと、通学っていうのを考えると、井原、笠岡っていう南北の動きと、東西っていう矢掛高校とか総社へ行ってる子は鉄道使ってる、通学っていうところをターゲットにすると、絡んでくるんかなというのがあったりして、公共交通という範囲で全体を把握するって

なると、鉄道は外せないかなというところでちょっと入れさせていただいてはいるんですけど。そのあたり最後までストーリーをどう意識するかで違ってくるかなというのは思うんですけど、いかがですか。

委員長（三宅文雄君） 10番目に井原鉄道の現状についてということで、含めたほうがいいのかという意見と、それから9番まででもいいと、井原鉄道については所管事務として12月の委員会に取り上げるという、2つの意見に分かれておりますけれども、こういった方向でこの所管事務調査事項を進めていったらええでしょうか。副委員長の提案は、だから井原鉄道も含めるべきだというご意見で。

委員（森本典夫君） 最初もう、そりゃあ下げます言うたが。

委員（西村慎次郎君） そうそう、下げます言うたけえ、ええんじゃけど。

委員（森本典夫君） 議長と一緒に揺らぎようる。

井原鉄道を10番で入れるんじゃないたら、そりゃもう当然井原鉄道のことも本気で資料に基づいて話をしてやっていかんといけんっていうふうに思います。

それで、この今回出とるこれも12月議会の所管事務調査になると思うんで、そういう点では井原鉄道、別枠で所管事務調査として載すというても、それも12月議会ということになるんで、それは重なると思うんじゃないけど、その10へそれを入れて、それで所管事務調査でやるとなれば、それもその資料に基づいて12月議会の所管事務調査で一定程度のこともまとめとせにゃいけんっていうふうに思うし。副委員長言われたように、このあいあいバスの路線の時刻表だって井原鉄道の井原駅へ到着する時間を見ながら路線も決めてるというよな、そういう物すごく緊密なあいあいバスと井原鉄道の原形もあるんで、そういう意味ではどちらも12月議会でやるけれども、もうこの一本で10へ入れてやるか、あるいはその9までのことで一本にやって、もう一つは井原鉄道のことを所管事務調査でもう一本やるかということしていくようになるんだらうと思うんですが、そこらあたりで全員の意思としてどうかなということになるんで、だらうと思うんですが。僕が言いましたのは、9はここへ、10はここへ入れずに別枠で一本立てて井原鉄道のことをやったらということで、そういうふうな提案をしております。

膨大になるのは覚悟で10を入れるか、この上の3つとあと井原鉄道も入れて。ちょっと西村さんが井原鉄道は除いてという話もありましたけど、今議論の中でどういうふうにしたんがええか、僕はそういうふうで2本立てで、どっちみち12月議会の所管事務調査になるんじゃないらう思うんですが。

委員（簗利昭君） この用紙の後の形式1、①ですか、1が2つあるんじゃないけど、ちょっとこれようわからんのんじゃないけど。

これをもとにこれに記入していただくというか、資料要求のうちで、だけん定期券の購入者であるとか、一般乗客がどれぐれえ、通勤、通学にも分かれとるし、そこまで調べてもらえるんかもらえんのかということもあるし、できりゃあそのほうが所管事務をしていく上では、通勤、通学別々なほうがええんかなという気はするんですけど、これをどこまでどういうふうに書いていただくのかということも含めてやっぱりちょっと考えていきょうらにゃあいけんのんかなという。

1 駅だけ、乗ってん人もおってじゃろうし、まあ、バスでもそうじゃし、1 区間しか乗られん方もある、最終目的の買い物であったり病院、学校へ通われるのに使われるという話なんか、それも含めて考えにゃいけんのかなと思う、しかも土日、平日というようなことですから、かなりの量になったりとかっていう、それをちゃんと分けていただけるのかいただけないのかも含めて考えていかにゃあ、かなり路線だつて、時間によってぼっけえ違うじゃろうし、その利用者数をその路線だけで出すのか時間帯に分けて出すのか、莫大な量になりゃへんかなと思ひよんですが。要は、7時20分発のどこどこ発でどこまで乗られたというのが要るのか、その路線のトータル人数だけでいいのか、ぼっけえ細けえ話になってくけど、それ恐らく1区間乗られても1人という判断にはなるんでしょうから、そこら辺非常に難しいかなという気もすんで、それも含めて考えていかんと、そりゃもうほんま莫大な資料になる。

委員（森本典夫君） 委員長、なかなか難しいけれども、10入れるか入れんかを決めて、入れるとなりゃあ膨大な、莫大な資料になるかもわからんけど、資料要求はどの程度、これは井原鉄道というてなつとるだけじゃけど、どういうふうにするかというのを、もし入れるとすればじゃ、区間とか細こうにしといて、そこらあたりちょっと先まず入れるか入れんかということを決めていきましょうや。

委員長（三宅文雄君） それでは、ただいま森本委員から提案がありました10番で井原鉄道の現状についてということで、執行部への資料要求を求めるかどうか、これを入れるかどうかについて決をとりたいと思いますが、10番に入れるほうがよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

それでは、10番に井原鉄道の現状についてを含むという方が3名でございます。ということで、10番に井原鉄道の現状についてを含むということで進めていきたいというふうに思います。

議会事務局次長（岡田光雄君） 今の10番で井原鉄道の現状についてということを入れるということになりましたが、具体的にここへ記載する、文字として、何を要求するのかがわからないと、執行部も何を出したら……。

委員（森本典夫君） それは何と何と何との現状についてというふうにせにやあそれがなという、何のことですかと言われるが。

委員（西村慎次郎君） （10）の井原鉄道の現状についてってということで、上記の（2）と（3）と（5）、（7）、井原鉄道の現状についてではどうですか。

委員（森本典夫君） 井原鉄道の（2）、（3）、（5）、（7）の現状についてということじゃな。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（三宅文雄君） それでは、10番目の井原鉄道の現状についてということで、（2）の路線ごとの時刻表、運賃表、運行業者、（3）の過去3年間の路線ごとの運賃収入、運行費用と、それから5番目の路線、曜日、時刻表との乗車人数、利用状況、7番目の路線ごとの井原市の補助額ということ資料を要求するというのでよろしいでしょうか。

委員（森本典夫君） 書き方としては、（10）として井原鉄道の上記2、3、5、7の実情についてというふうなことで、次長、どうですか。

議会事務局次長（岡田光雄君） それでわかると思います。ちょっともう一度、井原鉄道……。

委員（森本典夫君） 井原鉄道の上記2、3、5、7の状況について。

議会事務局次長（岡田光雄君） 上記2、3、5、7の状況についてという、はい。

委員（森本典夫君） でどうでしょうかと僕は思います。

議会事務局次長（岡田光雄君） はい、それで、具体的に執行部が対応できると思います。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） ただいま西村副委員長から提案のありました所管事務調査事項を、ただいま協議修正いたしましたとおり、本委員会所管事務調査事項に決定することにご異議ございませんか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） 次に、今後の進め方とスケジュールについて皆さんのご意見を求めます。

まず、最初に西村副委員長から提案をいたします。

委員（西村慎次郎君） 資料のほうが、先ほどの2枚の資料の後ろにつけさせていただいております公共交通の充実に関する所管事務調査についてというタイトルで、まず1つ目として調査の進め方及びスケジュールについて書かせていただいております。先ほどから出ておるどこまでするかというところで、このあたり範囲を決めていって進められたらというふうに思っております。

まずは、総務文教委員会の開催ということで、今思ってるのはきょうの10月の開催、月に1回ぐらいは多分していかないと何らかの成果は出てこないのかなというふうに思っています。流れとしては、まず現状把握ということで、先ほど所管事務調査の調査事項として皆さんにご了承いただきました、決定いただきました内容をもとにまず現状把握をしましょうと。二、三週間で執行部からの回答をいただいて、それをもとに内容を委員の皆さんに見ていただいて、どういったところに課題があるとかといったところの課題の整理をその後していただくと。そのあたり現状把握と課題を持ち寄って、11月の終わりごろに一度皆さんの意見交換を、委員会内での意見交換をしたいと。それを受けて、12月の定例会の中の総務文教委員会で再度現状の資料に対する質疑とか、こちらが思ってることを伝えての意見というか質疑ということで執行部の回答をいただくということで、12月に執行部との所管事務調査に対する意見交換をしたいというふうに思ってます。それをもとに、その執行部からの話を聞いた後にどういった解決策があるかといったような話をその委員会の中でできたらというのが4番目です。大きな改善策の方法、案をここで出してもらって、その後12月の下旬から1月にかけて、じゃあ具体的にその解決案の方法を、具体的にどういった内容にすべきかとか、それによってどれだけの効果がある、見込まれるかというような整理を一、二カ月かけてやって、最後2月にまとめということで、何らかの形での報告書がまとめられたらというふうな進め方はどうかなというふうに。

非常に期間が限られてるんで、こういった解決の方向性の案までつくって期待、効果まで整理するというようなところまでやっていくのか、現状のこんな課題があるねと、それに対してこんな方法の改善をしてみたらっていうようなところでとどめるのかというところで、皆さんの意見を聞きながらこの辺の全体の進め方、スケジュールというものを決めていただけたらなというふうに思ってます。

あと、以下2番目には先ほどの所管事務調査事項の現状調査、現状把握の内容についてということで、ちょっと10番は省いた形ですけども、1からっていう、プラス井原鉄道についてというところで書かせてもらってます。

現状把握する上でこの文言だけでいろんな資料が出てくると、こちらのまとめとか、確認も大変なんで、同じようなフォーマットで、路線ごとにばらばらで出ると大変なんで、様式

1とか様式2、様式3、4っていうことで、こんな様式で回答もらえんかというような様式を添付してます。お願いした事項が逆に伝わりづらかったらいけないんで、できるだけもう枠をはめてこんな形で出してもらえんかということで、様式を添付してます。今の資料の裏のページから始まるんですが、例えば様式1ですと、路線の一覧をベースにどの路線で運行収入、運行業者がどういう業者があったりして、運行収入がどれぐらい、過去3年間どうで運行費用がどれぐらいかと、井原市の補助額負担がどれぐらいあるのかと。

あとは、その右側って、登録者数っていうのは、予約がどのぐらい、タクシーは事前登録っていうことがあるんで、そのあたりの登録者数の推移を過去3年間、運行便数ということで、私のほうでわかる範囲内では書いてはいるんですが、その辺の運行便数がどうであったとか、過去3年間の運行便数の状況ってことで、路線バスなんかは運行便数、ほとんど変わらないんですけど、乗り合いタクシーなんかは予約がないと運行してないんで、そのあたりも便数を把握すると。平日、土日、祝日ということで、路線バスなんかは祝日は少ないというのもあるんで、そのあたり平日と土日、祝日を分けて把握できたらなというふうに。その右側が利用者数、これも過去3年間、平日、土日別。1便当たりの利用者数については、これは1年当たりの利用者数、範囲は、ちょっと見にくいですけど、割り算で自動的に計算できるようにしています。

あと、定期券の購入者数ということで、このあたり、井原市民のみが把握できるのかどうかかわからないですけど、そういった通学、通勤別でどれぐらい購入者がいらっしゃるのかというのが。

これで資料1をもとにやることで、先ほどの現状を把握、執行部への資料要求で(2)とか(3)とか(5)とか(7)っていうのは1枚の表で把握できるかなというふうに思ってます。

様式2については、井原市の所有してる車両一覧っていうことで、よく出るのがあいあいバスの車両を小さくしてはというような提案をよくいただくんで、そのあたりどういう改善方法があるかわかりませんが、乗車人数とかは把握して、そういう現状が把握できれば、車両更新時にこういう小型化はどうかというような提案はできるのかなということで、こういう様式2はつけてます。

様式3は、路線別、日別、時刻別の利用者数ということで、こういうのがあるから多分合計の人数が出てきてるんだと思うんですけど、このあたりもらうかもらわんかというのがありますけども、どの時刻にどういう、どの時刻のどの日に何人乗車してるかと、どこまで把握されてるのかわかりませんが、こういったところの記入シート用紙と。

あと、様式4については交通弱者の分布図ということで、理想は井原市の地図上にどのあ

たり、どれぐらいな交通弱者がいらっしゃるかという人数が絵で、1枚物でぱっと見れば、この辺路線がないけど、交通弱者がたくさんいらっしゃるんでっていうのがわかるのかなというところで、地図上に人数がプロットできればなというところで、このあたりもどこまでできるかわかりませんが、そういう記入シートを用意して、準備してますというところ
です。

ちょっと一通り説明させてもらって、あといろいろ意見をいただけたらと思いますけど。

3番として役割分担ということで、全体の作業を全て進めるとすると、それぞれの委員さんも執行部の方にも協力いただき、総務文教委員会委員さんにもいろんな作業をしていただきながら最終的にまとめというところで、これも案として書いております。

あと、4つ目として所管事務調査の結果の取り扱いについてということで、所管事務調査としていろいろ検討して行って、最終的にどうするのかというところもある程度、どこまでしていくかというところは意識合わせをした上で進められたらなというふうに。

パターンとしては、ここへ書いてるように、五つパターンぐらいあるのかなということで、井原市の公共交通会議へ提案ですとか、委員会で検討したことを報告っていうことをするということ。あとは、来年度の市民の声を聴く会での報告ですとか、どういった形のまとめになるかわかりませんが、その報告内容に対することをテーマにワークショップをしていただくとか、そういうやり方もあるかと。あとは、全員協議会での議員皆さんへの報告であったり、来年度以降の総務文教委員会へ引き継ぎをすとか、最終的にこの中での委員会間討議で終わってしまうと、その中でとどめてしまうというところで終わっちゃう、このあたりどういう形で最終的にこの所管事務調査をしていくかというのは、打ち合わせはしておいたほうがいいかなというふうに思います。

一応ざっと進め方としての案としては以上です。

委員長（三宅文雄君） 次に、次回委員会での具体的な協議事項について皆さんのご意見を求めます。

先ほど西村副委員長から提案ございましたけれども、具体的な協議事項について皆様方から提案があればお願いしたいと思います。

委員（森本典夫君） 全体の流れとして、今局長が調べてくださって、聞いてくださって、公共交通の会議そのものが今の言われたような状況と最終的に決定するのは7月ということになるんで、所管事務調査で12月にやるとして、一応僕らの任期が4月ということですから、最終的な議会ということになると、2月議会っていうことになるから、そういう意味じゃ、そこまでやって、そこで公共交通に提案するような事項があれば提案するということになって、そこで切れてしまうと、基本的にはという感じで、その次の年の、ほじゃ

けん来年度の7月にその提案が協議されるようなことがあれば協議して、こういうことが委員会から出るといふような話もなるんでしょうけど、そこでいろいろ協議されて、提案が実るか実らんかわかりませんが、決まってくるということの流れになるんで、そういう意味では、所管事務調査をすることで提案をして資料出してもらうて、こっから先にどれだけ一般に会議を開いて、できるだけ2月議会までには大体出しとくか、もうそれより後のしながら提案を、最終的には自分らの任期中に提案をして公共交通で出すかというような流れになってくると思うんで、具体的に今後たちまちどうこうというのがちょっと頭に浮かびませんが、どうすりゃええんかなと思って。

委員（簀戸利昭君） 現状把握ということで執行部へ依頼、これは正副委員長と書いてあるんで、恐らく委員長の名前でということになるんでしょうから、それがいつぐらいに返ってくるかという、資料提供をいただけるかという問題になるんじゃないかええんかなという気がして、それを見て、見ながらどうしていくかということのも決めてもええんかなという気がする。いきなりという話にはならんのかなという。現状把握をやっぱりしっかりしていつて、何が問題なんかということ整理していかにゃあいけんのんか。じゃけん、現状把握に非常に時間がかかりそうな感じは受けますが。

委員（上野安是君） やっぱり次の日程、今その最初の副委員長の説明で11月のほうから終わりごろみたいな星印ついてますけど、そこでいくとしたらそれまでに今から資料要求して一月後、1カ月後にそろるかそろわんかという、どこまでそろるかです、今の1から10までの話で。それ、その他内容だけでも見にかかるといふことですかね。それを実際にするんだったら11月の終わりごろということだから、実際に次の委員会とすりゃあ、その資料といふか提出された資料を見て、さあさあ検討するといふ内容にしかならんのかなと思いますけど、次回と言ええ。

委員（森本典夫君） 早目に資料要求してもらうて、それで返ってきた時点で日程を決めて協議するといふことじゃろう。

議会事務局次長（岡田光雄君） 執行部のほうへ今度は今決定いただいた資料の要求をしまして、回答をいただきましたら、その内容について現状把握と課題整理といふことになろうかと思ひます。その時期につきましては、あと委員会で決定していただければと思ひますが、資料提出していただくのに、半月ぐらひは必要かなと、かなり分量もありますし、それから井原鉄道の関係の資料がついて、それぐらひの時間はかかるかなと思ひます。

委員長（三宅文雄君） ただいま事務局のほうから半月ぐらひは必要だろうといふふうなことが説明ありましたけれども。

委員（森本典夫君） だから、できるだけ早く資料請求して、資料が半月ぐらひで返事く

ださいということをお願いをして、そんで返ってきた時点で今議長が言われたように、100%返ってこんかもわからんし、それはまだもう一度かかりますということになるかもわからんけど、一定程度協議できるような段階になったというふうな判断ができれば、その時点で委員会を開く日程も正副委員長で相談して、事務局とあわせて相談して、それで日程を決めて開くということではいいんじゃないでしょうか。

委員長（三宅文雄君） ただいま森本委員の提案は、執行部から資料が整った段階で、正副で議会の日、委員会の日にちを決めたらどうかという意見でございますけれども、この後で次の開催日については検討したいというふうに考えております。

この件につきまして、本所管事務調査事項につきましては閉会中の継続調査事項といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員（西村慎次郎君） 進め方として今のでもいいと思ってて、執行部からの資料は全部まとまらなくても随時、ある程度一定の部分が整理できたら出してもらおうというやり方の依頼もできるんですね。これだけ1から10まで出すと、1から10までそろわんと出してくれんのでしょうか。

議会事務局局長（川田純士君） 基本的には1週間ということになっただけですけども、通常の定例会は。今回のボリュームはありますし、ちょっと1週間とかじゃ到底無理なんで、例えば2週間とか20日とかという区切りをして、それによって執行部のほうからその期間内には通常ですと全部出るか、あるいはこれについては何月何日までに出します、あるいはこれについてはもう資料がないので出せませんという、回答期限にはその答えは返ってきます。ですから、全く資料があるのと全然資料がないのと、あるいは何日まで延長してくださいというような格好になると思いますので。

委員（西村慎次郎君） わかりました。

だから、期限は一応決めて依頼はするというで。いいですね。

議会事務局局長（川田純士君） やはり決めていただいたほうがいいと思いますけど。

委員（西村慎次郎君） 執行部からの回答が来れば、それを事前に皆さんに配っておいて、次の委員会を開くという流れでよろしいですね。

委員（森本典夫君） はい、よろしいです。

議会事務局次長（岡田光雄君） 例えば、その提出期限を半月みますと、もう10月終わりですので、11月14の週の真ん中あたりになるんですけど、ここらあたりで決定してい

ただいて、出てきたのを委員さんにお配りして、月末一般質問を締め切った後ぐらいに、次回委員会を開催するぐらいがいいかと。

委員（森本典夫君）　　ですから、一応要望書が出せる状況になった時点で、きょう出そうということになれば、今局長言われたように、基本的には1週間なんじゃけど、また1週間延ばして2週間にして、これまでに以上お願いしたいですというふうなことで出すということにして、そっから先はもう返ってきた状況で、あとそれで委員会開けるなということになったら、いついつということを開いていただくというふうなことでいいんじゃないでしょうか。

委員（西村慎次郎君）　　それでいいと個人的には思います。ただ、最終的にどこまでやっていくっていうのが、現状把握してみにゃあわからんというのもわかるんだけど、ある程度今の段階では何らかの提案を公共交通会議のほうへ提出できるところを目指してやっていこうという意識で、意識統一でいいのか。まずはやってみにゃあ、現状を把握してみにゃあわからんというレベルなのか。そのあたり皆さんの認識、意識を合わせたいです。

委員（森本典夫君）　　先ほども言いましたように、任期が4月29日っていうことでありますので、2月議会がいつごろ開かれるかわかりませんが、ここら2月議会が始まるぐらいまでに一定の内容がまとまるとして、議会へでも報告できるような状況になればと思うんですが、そこらあたりはとりあえず2月中、議会の最終日、2月議会の最終日ぐらいまでにはまとめて報告ができるような形が格好としてはええと思うんで、一応目安としてはどんな資料がどれだけ出て、協議がどれだけ進んでどうこうということにはなると思うけど、そこら2月議会の最終、そりゃ報告するようになるんかどうかちょっと僕もようわからんけど、そこらあたりの2月議会の最終日ぐらいまでには一定目鼻がついて、最終的にはその次の7月で提案が実るか実らんかという流れでいくのがいいんじゃないかなというふうに思います。

　　ですから、2月議会最終日までにはまとめるということはどうでしょうか。

委員（藤原清和君）　　そのスケジュールでいきましょう。

委員（上野安是君）　　もう今副委員長がその公共交通会議、提案とかどうかという、実際には形として議会、市議会がその公共交通会議に提案っていうか、それを持っていける格好なんですか。その首長に、市長に出す。市長が、ほんならこういうもんが来ましたよって公共交通会議に渡すの。それともというか、そこが、この話は当然この委員会、確かに今は総務文教委員会の話ですけど、議会全体の話でちょっとまとめて、議会からどこそこへという提言なり何なりという格好に落とすとすれば、それはそれでそうなればです、全員協議会でそうしましょうということになりゃ、それはそういう今のこういうまとまりで報告書が、市議会からの今度は報告書でそれを渡しますけんよろしゅういろいろ検討してくださいよと

いう格好で、渡す先は公共交通会議なのか市長なんか、そこというのはぜひ、その公共交通会議へ渡して、はい、ほんならはい、わかりましたって、もう右か左にそない置かれてもどうしようもない、それが市議会としてはできるんかできんのんかが今、公共交通会議の一番上は市長じゃねえ。

委員（森本典夫君） 副市長がトップ。

委員（上野安是君） 副市長が一番上。

委員（森本典夫君） だから、そこらあたりちょっと研究していただいて、基本的には委員会で、公共交通の会議の中で細かく何やかんや時刻表も含めて決めて、最終的には先ほども局長からあったように、10月ごろからか、の変更に係るわけじゃから、できれば公共交通へ委員会としてか議会としてか、出すような形が僕はベストだろうというふうに思いますが。

やり方として担当課のところへ聞いていただいて、それは市長に上げていただいたら、公共交通会議の中でそういうふうな提案が議会から出とりますというて取り上げてもらって提案、協議してもらおうというふうにしたほうがええと言われりゃあそれはそれでええし。そりゃ公共交通会議のほうへ直接、議会としての、委員会としての提案ですというて出したほうがええとかといったなるんか、そこらあたりは担当部署と相談してもろうて進めたらどうかなというふうに思うので、議長が言われるように、どうしたのが一番ええのかということですんで、そこら担当課とも相談してもろうて、向こうが一番ええなというふうに言われるような方法でまとめた提案がどっかで協議されるような状況をつくれればと思いますんで、それはそこらでちょっとよう。一定程度まとまる時分には、そこらあたり担当課と協議してもろうたほうがええんじゃないかなというふうに思います。

委員（簗戸利昭君） 最終的には今森本委員や議長が言われたようになればいいなとは思いますが、基本的にはこの③のところの全員協議会で報告できれば私はいいんかなという気はしょうんで、そっから先、継続でやるというんもよしと思いますので、とりあえず目標を余り大きく置かずに、内容にもよりましようから、まず2月の定例会の全員協議会で報告できる体制でいって、なおかつその内容がまとまりがようて、提案ができるような内容であればそっから先に考えてもええんじゃねえかなという気はしょうんですが。いきなり公共交通会議とか執行部へという話もありましたけど、とりあえず基本的には現状把握をして、経費がどれぐらいかかっただとかということを検討していって、どうしたらいいのかというのを判断せにゃいけんわけですから、かなりな量ですから、どこまでできるかもわからない、できればせめて全員協議会で報告をさせていただくぐらいのところを目標にさせていただいて、最終的にはもっと内容がよければ当然出しゃあええじゃという、いきなりその提

案まで持っていけるかどうかというのちょっとわからないので、そこらを目標に、皆さんおっしゃられるように、2月の定例会を目標にまとめていくという方針でええんじゃねえんかなという気はするんですが。

委員長（三宅文雄君） 　　ただいま箕戸委員のほうから提案ありました2月の定例会の全員協議会に諮って、それから次の公共交通会議とかというふうなのを決めていったらどうかということで、そういった方向でよろしいでしょうか。

委員（森本典夫君） 　　僕は、市民の声を聴く会を出してきて、こういう声が出とんじゃから、そういう意味では何らかの形で委員会として、いろいろ協議した結果、こういう提案ができましたというところまで持っていかないと、全員協議会でということになると、議会の中だけで済んでしまうんで、それでは出してくれた声に対しての、言ってみれば誠実な答えになってないというふうに思うんで、できれば何らかの形で市長経由か直接か議会としてか委員会としてか、提案をるところまで持っていくふうにするのが市民の声を聴く会に出された人々の声に応えることではないんかなというふうに思うんで、全員協議会でいろいろ報告して、ほうそうかということだけではちょっと、自分自身は物足りませんね。

委員（藤原清和君） 　　最終的にはやっぱりその改善方法も、答えを持って、最終的に持ってくる方向で、そこへ持ってくるための、私らが努力せにゃいけんと思いますから、どうなるんかわからんけども、そういうことで出せるように取り組んでいくべきじゃと思います。

それで、もちろん全員協議会へ諮って、そこで皆さん方の承認得た上でそれで出していくんじゃし、それで開催のどこにも返していかんやいけんから、最終的なものは持っていかんやいけんと思う、結果は持っていかんや。今まで答えが返ってこんとか、どないな結論出したんとか、ないということが多いんですから、声が。そりゃちゃんとやっついていかんやいけんと思います。そこまで持っていけるように努力するというのでやりましょや。

委員長（三宅文雄君） 　　だけん、まず全員協議会へかけて、それから……。

委員（藤原清和君） 　　それは出る時点じゃな。

委員（西村慎次郎君） 　　多分公共交通会議で非常に今の井原市の公共交通網については検討された結果が今の現状だと思うんで、それなりの良い運営はされてるんだらうなというふうに思うんだけど、何らかの提案はできるんじゃないかなというふうには思ってるんで、できるだけその議会内でとどめるんじゃなくて、なんらかの形で執行部もしくは公共交通会議への提案ができるものを目指してこの所管事務調査は進めたいという思いですんで、そこを目標に進められたらなというふうに。

委員長（三宅文雄君） 　　目指す方向は、その公共交通会議へ最終的には持っていくという森本委員の意見なんですけれども、先ほど言ようったように、箕戸委員は全員協議会に諮っ

てから、それから持っていったらどうかという意見ですか。

委員（森本典夫君） それはもう全員協議会は経過で。そりゃあもうそれを無視してはできません。

委員（上野安是君） ただ、簀戸委員が言われるのは、報告書として、ファジーな報告書になってしまったら、結果的にそれをもろうても実効性も何ものうて、ただ形だけの形骸化した提案してもそれは一個も効果も何もないので、もう少しその、実際に今度は時間との勝負になるので、我々のこの期で、この期の委員会のメンバーでそこまで出せるかどうかというのもまだ、ひょっとしたらわからんわけです。そりゃあ今森本委員が言われたように、形あって、確かにことしの市民の声を聞く会で聞いたことじゃけえ、来年の市民の声を聴く会にやこうやって提案したよってというのは、そりゃ言いてえのはやまやまなのですが、なかなか簀戸委員がちょっと控えて言うてくれりょうるのはそういうようなことなので、やり方とすりゃあ間違いなく外にどういふ形か、外というよりも関係機関に我々の委員会、あるいは議会として提案ができりゃあもう間違いなくそれが一番いいことなんですけど、しっかりした提案ができる、すべく頑張りはしますが、今度は時間との勝負、あるいはその情報、どこまで我々が集めれるかってのが勝負なので、一概に今決めて、ここをぜひともこうやりましょうというのがすぐにはできんっていうことをまとめてくれたんだと思いますんで、言うことは、みんな同じところでいきょうると思いますから、それでいいと、まとめられりゃあええかなというんじゃないかなと。

委員長（三宅文雄君） それでは、いろいろご意見出ましたけれども、そういうことで最終的には市民の声をワークショップで聞いた結果を委員会として取り上げて、そして公共交通会議等へ提案できればなというに方向で、しっかりと協議していきたいという方向で進めていくということによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、続きまして先ほど来るる出ておりましたけれども、次回委員会の開催について皆さん方のご意見を求めます。

委員（森本典夫君） 先ほど言いましたように、流れを見ていただいて、次回いつというんでなくて、その会議が開けるようになった時点でそっちへ連絡していただくということにせんと、そんな決めとった日にちまでに処理がそろわなんだということになったり、それから早うにそろうたが、もうちょっと早うにしときゃえかったかなということにもなってもいいけんし、それは正副委員長にお任せするという形で、日程は決めずに行くほうがいいんでは

ないかなというふうに思いますが。それ、あえて決めるんならそりゃ決めてええと思う、変更するとかすりゃということになるんかどうか、そこらはどんなんでしょうか。

委員（上野安是君） どこかで決めといても、それが11月の真ん中になるんか後ろになるんか、ちょうどその議会が、ありゃあ議会説明会か、あの辺の日にちが合うのかその辺がわからないので、今もしその案として委員長、副委員長が持つとられりゃあそれを言うてもろうて、ちょっと早えじゃ遅えじゃという話をしたほうがいいのかなど。決めたほうがいいと思います、日にちは、決めてもらっとったほうが私は楽ですがね。

委員（森本典夫君） そういうことになれば、議案説明会ときにはもう皆、身はあけると思うんで、それは短時間で済むわけじゃし、その後にするとかというふうなことにしとけば、そりゃあ皆さん時間的な制約がある人がおるかもわからんけど、その日は必ずこっちへ出てきてんじゃけえ全員がそろっじやろう、そう思うんで、その日はどうでしょうか。

委員（藤原清和君） それでよろしい。いつになるんかな。

議会事務局次長（岡田光雄君） 議案説明会が今の予定で28日の月曜日なんです、ただ翌日の29日の朝10時まで一般質問の締め切りがありまして、非常にちょっと事務局が回らない状態でありまして、できましたら30日か1日、2日のあたりのほうがちょっと助かります。

委員長（三宅文雄君） 11月30日、12月1日、2日のあたりでどうかという事務局案なんです。

委員（簗戸利昭君） 11月14から18の週はどがんもならんのんですか。

委員（藤原清和君） そりゃ出りゃええけど、資料が出りゃええけど。

議会事務局次長（岡田光雄君） そのくらの間に資料の提出期限を区切りたいなっていう。そこから皆さんに目を通していただく日にちもとらにゃいけんので、月末から1日、2日ほどでどうでしょうかという。

委員長（三宅文雄君） 日にちは、それでは12月1日ということ。

午前という意見が多いようですので、12月1日の午前9時半から開催するというように決定いたします。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、以上で所管事務調査事項についてを終わります。

〈その他〉

委員長（三宅文雄君） 次に、2、その他でございますが、こちらからは特にありませんが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、以上で総務文教委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。